知事が行く！突撃取材！Part2 ～三重のひと～

第3回

～漁師の町で生きていく！～

若者が集まる早田漁師塾

インタビュー詳細版

（聞き手）
三重県知事　鈴木 英敬

（お話いただいた方）
早田漁師塾
（主宰）岩本 芳和さん
（1期生）吉田 元治さん
（3期生）浦　和弘さん

浦 和弘さん　吉田 元治さん　岩本 芳和さん

知事：まず、吉田さんと浦さんにお伺いします。なぜ漁師になろうと思ったのですか。

吉田：僕は、海が好きだからです。釣りが好きというのも大きいですね。それが一番の理由かもしれません。

知事：なるほど。でも、趣味で釣りをするのと、漁を生業にするのとでは違いますよね。趣味ではなく漁師になろうと思ったのはなぜですか。

吉田：一年間、釣りを続けられたら漁師をやろうと思いました。寒い日も暑い日もやっていけるならこれでいこうと。

知事：そしたら続いた。すごいですね。浦さんは、どうして漁師になろうと思ったのですか。

浦　：僕も海と魚が好きなんで。

知事：魚好きでも、いろいろあるじゃないですか。水族館とかもありますよね。

浦　：それも考えました。

知事：水族館も考えたんですね。それでも漁師になろうと決めた理由は。

浦　：魚を獲るのが好きなので、それを生活の糧にできたら最高だと思いました。

知事：お二人とも好きなことを仕事にできているわけですね。素晴らしい。
早田での暮らしはどうですか。それまでの生活と大きく変わりましたか。

浦　：前職は都会で眠れない仕事をしていたんです。

知事：どんな仕事だったんですか。

**浦　**：歯科技工士をしていました。

知事：歯科技工士。歯をつくる仕事ですね。

**浦　**：はい。でも、こっちに来たら自然の中で、太陽の下で仕事ができ、日が沈めば寝るという生活ができるので。そこが一番変わったところです。

知事：なるほど。都会で歯をつくるのと漁師とはずいぶん違う仕事ですね。

**浦　**：はい。仕事を変えるなら真逆のことをしようと思いました。

知事：歯科技工士の資格を取るのは大変だったんじゃないですか。

**浦　**：はい。資格取得は結構大変でしたが、将来それでやっていけるかと不安に思った時に、漁師になることを考えました。

知事：吉田さんは、早田での暮らしはどうですか。

吉田：釣りに行く時間が短くなりました。すぐに行けるだけにね。前は豊田市に住んでいました。同じような田舎だったんで、その他はあまり変わらないですね。でも、海は近くなりました。

知事：なるほど。こちらでご結婚されて、生活はどうですか。

吉田：そうですね。一人より二人の方がいろんな面で楽ですね。笑顔でやっています。

知事：いいことですね。移住して地元の人と結婚し、幸せに暮らしてもらえるのは最高ですね。これから、お二人を含めた若い人たちが早田を背負っていくことになると思いますが、今後どのような町にしていきたいですか。

吉田：年々若い人が入って来てくれるので、そのまま定着してもらって、活気ある町になったらいいですね。

知事：そのために吉田さんは、どんなことをしたいと考えていますか。

吉田：笑顔で接するですね。

知事：笑顔。いいですね。浦さんは、どんな町にしていきたいですか。

**浦　**：不安なく生活できる町になったらいいですね。

知事：例えば、どんなことが不安ですか。

**浦　**：この先、漁業が廃れていかないか不安です。

知事：それは大事なことですね。では、岩本さんにお聞きします。漁師塾を始めて4年。早田はどのように

変わってきましたか。

岩本：私が早田浦共同組合の組合長になった11年前には、「10年後、20年後には人口が減って町がなくなる」と、よく言われていました。そういう状況の中で、まちづくりの一環として始めたのが漁師塾です。塾のホームページをつくり情報を発信していく中で、若い人が入ってきてくれて、活気が出てきたように思います。10年前より賑やかになりました。

知事：それはいいことですね。日本全国の漁村が人口減少や若者の流出に悩んでいる中で、そのような兆しが現れてきたのは素晴らしいことです。これからの課題やビジョンはありますか。

岩本：早田でブリ漁をする早田大敷が株式会社となって12、3年になります。会社としてきちんと収益をあげ、永続的に経営していく必要があります。先ほど、浦くんが将来に不安があるという話をしていましたが、安定した経営を続け、若い人が安心して仕事を続けられる環境にしていきたいと考えています。また、組織的にも仕事のやり方も設備も、昔の伝統を引き継ぎながら新しくしていく必要があります。特に設備は、国の「もうかる漁業創設支援事業」を利用して、船や網を新しくしていきたいですね。そして若い人は、これからの2～3年で、しっかりと勉強して一人前の漁師に成長していただき、早田の漁業を背負っていってほしいと思います。そのための教育もやっていきます。

知事：これまでの村の良さを生かしながら、収益を上げるモデルを築いていくということですね。ありがとうございます。それでは吉田さんと浦さん、お二人の夢を聞かせてください。

吉田：一生、笑って暮らせればいいですね。

知事：一生、笑って過ごしたい。笑顔、笑う、その言葉、大好きですね。いいですね。
浦さんは、いかがですか。

浦　：漁業をしに来たからには、いずれは船を持ちたい。いろんな漁で稼げるようになりたいです。

知事：素晴らしいですね。最後に、漁師になりたいと考えている人たちに、先輩から一言ずつアドバイスをお願いします。

浦　：漁はつらく厳しいこともありますが、大漁の喜びを味わったら絶対やっていけると思います。

知事：なるほど。

浦　：少しでも漁師に興味を覚えたら、勇気を持って一歩、踏み出してもらいたいと思います。

知事：そうですね。

吉田：やる気があれば、チャレンジしにくるといいかな。短期間だと分からないこともあるので、1年、1シーズン、やった方がいいと思う。

知事：関心があれば実際にやってみる。その中で、しんどさも喜びも感じながら前に進んでみようということですね。分かりました。ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。
※記載内容、写真の無断転載を禁じます。
※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13
☎ 059･224･2788　FAX 059･224･2032
E-mail　koho@pref.mie.jp